

修学旅行や校外学習等の体験活動時における
新型コロナウイルス対策ガイドライン(第9版)

沖縄体験ニライカナイ

2021年12月1日

1. 本ガイドラインについて

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」(2020年5月)において、「今後、感染拡大の予防と社会経済活動の両立を図っていくに当たっては、特に事業者において提供するサービスの場面ごとに具体的な感染予防を検討し、実践することが必要になる。社会にはさまざまな業種等が存在し、感染リスクはそれぞれ異なることから、業界団体等が主体となり、また、同業種だけでなく他業種の好事例等の共有などを含め、業種ごとに感染拡大を予防するガイドライン等を作成し、業界をあげてこれを普及し、現場において、試行錯誤をしながら、また創意工夫をしながら実践していただくことを強く求めたい」とされました。

これを受け、同専門家会議の提言の中にある「各業種のガイドライン等の作成に当たって求められる基本的な考え方や留意点の例」等に留意しながら、新型コロナウイルス感染症の終息までの対策を弊社独自に作成いたしました。

作成に当たり、日本旅行業協会の「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き」、同「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、NPO 法人自然体験活動推進協議会の「自然体験活動・自然教育・野外教育・環境教育を実施している事業者における新型コロナウイルス対応ガイドライン」、アソビュー株式会社の「観光施設向け新型コロナウイルス対策チェックリストについて」、DAN JAPAN の「COVID-19 とダイビング活動」等を参考にしました。

その後、体験教室連絡会の「体験教室向け新型コロナウイルス対策ガイドライン」とアクティビティツアー連絡会の「アクティビティツアー向け新型コロナウイルス対策ガイドライン」及び 20 年 10 月に開催された「沖縄県修学旅行受入事業者防疫対策セミナー」での現沖縄県参与の高山義浩感染症専門医(厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策推進本部参与)の助言等により、第7版で大幅な見直しを行いました。

今回の改訂は、21 年 11 月 22 日に発表の日本旅行業協会の「旅行関連業における新型コロナウイルス対応ガイドラインに基づく国内修学旅行の手引き(第5版)」、同「旅行業における新型コロナウイルス対応ガイドライン(第3版)」を参考に、ワクチン接種が進み感染状況が小康状態になりましたが、オミクロン株の国内侵入を受け、今後の感染状況に備えたものになっています。

弊社スタッフと多くの指導員がワクチン2回接種済みですので、学校様のご要望により、沖縄菓子作りと本格サンシンの受付を再開いたします。尚、サトウキビは 10 月から翌年 5 月までの間のお引受となります。その他、一部見直しをしています。申し訳ありませんが、どうぞご了承いただきますようお願い申し上げます。

本ガイドラインは、最新の専門家の知見、ワクチン接種状況や治療薬の使用、指定感染症分類の見直し等を踏まえて必要に応じて改訂する予定です。

2. 新型コロナウイルス感染対策の基本について(高山義浩医師資料参考)

どこにいる

- ・感染している人が触れた場所
- ・感染している人から2メートル以内
- ・感染している人のいる密閉された空間

どうやってうつる

- ・感染している人が触れた場所を触って、自分の目鼻口を触る(接触感染)
- ・感染している人から2メートル以内に、マスクを着用せずにいる(飛沫感染)
- ・感染している人のいる閉鎖された空間で、一緒に長時間過ごす(エアゾル感染)

どうすればいい

- ・感染している人が触れた可能性がある場所に立ち入らない、または消毒する。
- ・感染している人から2メートル以内に立ち入らない、またはマスクを着用する
- ・感染している人のいる閉鎖空間に立ち入らない、または換気をよくする。

3. 感染対策の基本方針について(学校様側の感染対策要望レベル)

- ①体験者や教職員が弊社スタッフから感染することがないように対策を行うこと
- ② ①に加え体験者が弊社スタッフや指導員に感染させないように対策を行うこと
- ③体験者間の感染防止にも出来る限り努める(屋内の生徒間の距離 1m確保)こと
- ④体験者間の感染対策も徹底(生徒間の距離 2m確保)すること

※ご利用希望時に、①から④のどのレベルまで求めるかをお知らせ下さい。

学校様からの感染対策のご要望レベルにより、お引受出来る体験プログラムや体験人数が決定されます。レベル④希望時は、弊社ではお引受出来ません。

4. 具体的な対策について

新型コロナウイルス感染症の最もよくある症状の「発熱」、「空咳」、「倦怠感」や時折みられる症状の「痛み」、「鼻水・鼻づまり」、「のどの痛み」、「下痢」、「結膜炎」、「頭痛」、「味覚や嗅覚の消失」、「皮膚の発疹、手足の指の変色」などを特に注意して健康チェックを行う必要があります。また、感染症の主な感染経路である飛沫感染と接触感染、エアゾル感染について、社会的距離の確保や換気対策と接触防止策及び除菌や消毒方法を明示し、学校側の要望に応じた感染防止対策を徹底して実施いたします。

1) 弊社スタッフの健康管理について

- ・ 毎日、営業開始前に体温と症状の有無を記録・保存し、新型コロナウイルス感染症と疑われる症状が発生した者は自宅待機にします。また、勤務中に具合が悪くなったスタッフは、予備スタッフと交代の上、直ちに帰宅させ自宅待機とします。
- ・ 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合及び同居家族に同感染症と疑われる症状がある者は、出勤させずに自宅待機とします。
- ・ 体温は各人の平熱を基準に1度以上の場合、その他の症状が全くない場合でも帰宅させ、自宅待機とします。
- ・ 勤務前、休憩後、外出帰社後を含め、定期的に消毒用ソープで手指洗いの後、常備しているペーパータオルで拭き取ることを徹底します。
- ・ 全スタッフには不織布マスクを配布し、ミーティングや打合せもマスク着用するか、オンラインか電話等で行うようにし、密対策も併せて行います。

2) 指導員、受入担当者の体験者様への対策について

- ・ 指導員や受入担当者が出勤前に体温と症状の有無を記録・報告後、新型コロナウイルス感染症と疑われる症状が発生した者は自宅待機にし、予備スタッフと交代します。(複数人発生した場合は、受入を中止させていただく場合もあります)
- ・ 指導員や受入担当者で同感染症陽性とされた者との濃厚接触がある場合及び同居家族に同感染症と疑われる症状がある者は、指導させずに自宅待機とします。
- ・ 指導員や受入担当者には専用の体温計を所持させ、体験者に使用する場合は必ずアルコール消毒を行った後に計測するようにします。
- ・ 体温が平熱を基準に1度以上ある者は、その他の症状が全くない場合でも指導させずに、自宅待機とします。体験者が新型コロナウイルス感染症と疑われる体調不良時は、体験への参加や来場をお断りしています。※下記3)参照
- ・ 定期的に消毒用ハンドソープで手指洗いをしっかりと行うことを徹底しています。手洗場がないところやハンドソープが使用出来ない場所では、アルコール消毒液を準備し、適宜、消毒出来るようにしています。
- ・ スタッフは不織布マスクを着用し、密集や密接にもならないように徹底いたします。
- ・ 体験内容や状況によりパーティション設置やフェイスシールド装着して指導します。
- ・ ユニフォームやエプロン、衣服等は指導後に毎回こまめに洗濯いたします。

3) 新型コロナウイルス感染症が疑われる場合(管轄保健所と指定病院等)

- ・ 同感染症が疑われる事例が発生した場合は、保健所に連絡し対応を相談します。
※中部保健所 098-938-9701 / 県立中部病院 098-973-4111(うるま市・車 27分)
※修学旅行生や教職員の熱発時は、「旅行者専用相談センター098-840-1677(8時~21時・無休)」又は「相談窓口・コールセンター098-866-2129(24時間・無休)」

4) 沖縄体験ニライカナイ推奨体験プログラムについて(2021年12月1日第9版)

★感染対策が可能なお奨めの体験は下記の通りです。(沖縄県の警戒レベルは8頁)

①漆喰シーサー(沖縄及び発地が警戒レベル3以下、学校要望レベル③以下)

・・抗菌作用のある強アルカリ性の漆喰を使う開放可能施設での個人毎の体験

※従来は体験者6~7名で1テーブルを3~4名に2(又は大1)テーブルとします。

1テーブル60cm×180cm、2テーブル120cm×180cm、大テーブル90cm×180cm

※最大40名程のお引受ですが他の体験がない場合は最大100名迄可能な日もあります。

②海細工(警戒3以下、要望③以下)※最大40名程(マリンクラフト最大120名程)

・・ビーチで素材拾いと開放可能施設でのアクセサリー等の個人毎のクラフト作り

※従来は体験者6~7名で1テーブルを3~4名に2(又は大1)テーブルとします。

③イノー(警戒3以下、要望③以下)※最大80名程度(日程により40~120名程)

・・自然海岸でのビーチトレッキングと生き物探し(荒天時はマリンクラフト予定)

※マリンシューズは事前に次亜塩素酸ナトリウム液で消毒します。マリンクラフト付プランは、海岸でのマリンクラフト作りが天候により実施出来ない場合もあります。

④洞窟探検(警戒3以下、要望③以下)※最大45名程度

・・野外や自然洞窟内での鍾乳石や生き物観察を午前午後各1校限定の体験

※1回に45名までと受入人数制限や感染対策を行い、事前説明を十分に行った上で洞内を案内します。対策上、洞内に電球を入れましたが暗闇体験も可能です。

⑤護岸釣り(警戒3以下、要望③以下)※最大45名程度

・・漁港や海浜公園の護岸でのキャッチ&リリースの1地区1校限定の体験

※1回に45名までと受入人数制限や感染対策を行い、事前説明を十分に行った上で指導します。(荒天時はマリンクラフト予定)

⑥シーカヤック(警戒3以下、要望③以下)※最大80名程度(日程により160名程)

・・カヤック講習とビーチ探検をマリブビーチとミッションビーチで人数各80名迄

※カヤック講習中の生徒間(顔の位置)は130cm、指導員は緊急時を除き1m以上の距離を取ることが可能です。ビーチの更衣室は換気対策も講じています。

⑦シュノーケリング(警戒3以下、要望③以下)※最大120名程度

・・シュノーケリング講習とビーチ探検をミッションビーチで100~120名迄

※シュノーケリング講習の指導員との距離は、緊急時を除き1m以上取ることが可能
海上講習中に生徒間の距離を1m以上保ち続けることは出来ません。

※バナナボートで生徒間の距離が必要時は、1艇10名定員が4名迄になります。

※学校側の要望レベルや感染状況等で対応方が変わります。予めご相談下さい。

⑧サンゴ(警戒3以下、要望③以下)※最大40~120名程度

・・海岸観察と開放可能施設でサンゴの苗作り等(警戒レベル3時は最大40名)

★各体験の最大人数は日程と希望体験数により変わります。予めご相談下さい。

★12月1日現在、軽石の影響は一部にありますが、強い南風後には離れています。

5) 沖縄体験ニライカナイプログラム中で対策が困難な体験について(第9版)

★感染対策に注意が必要な体験とお引受を中止する体験は下記の通りです。

⑨サトウキビ(警戒3以下、要望③以下・6~9月の期間及び特定日は引受中止)

..サトウキビ畑の管理と維持が困難な上に、担当指導員が減少(最大40名可)

⑩パイン(引受中止決定)

..沖縄県産パインの確保と大人数の取消に対処することが困難

⑪沖縄菓子(警戒2以下、要望②以下)

..食材と器材を共有し指導員との距離が近く、感染流行期には不向き(最大40名)

⑫沖縄そば(警戒1以下、要望②以下)

..食材と器材を共有し指導員との距離が近く、感染流行期の対応が困難

⑬沖縄料理(警戒1以下、要望②以下)

..食材と器材を共有し指導員との距離が近く、感染流行期の対応が困難

⑭うちなんちゅ(警戒1以下、要望②以下)

..指導員との距離が近い家庭内交流体験であり、感染流行期の対応が困難

⑮サンシン(警戒1以下、要望②以下)※唄わない場合は警戒2、要望③以下で可

..指導員との距離が近く、密閉室での唄いながらの演奏体験

⑯エイサー(警戒1以下、要望②以下)

..指導員との距離も近く、太鼓の音が大きくなるため密閉室での体験

⑰琉球舞踊(警戒1以下、要望②以下)

..指導員との距離が近く、感染流行期の対応が困難

※⑮~⑰は開放施設で可能な恩納村観光協会(TEL098-966-2893)もご検討下さい。

⑱やちむん(業務見直しのため2020年から引受中止)

⑲ハーリー(警戒1以下、要望②以下)

..海人との接触や生徒同士の接触や大声での発声等を止めにくい体験

⑳船釣り(警戒1以下、要望②以下)※軽石の影響を受けることもあります。

..海人との接触や生徒同士の接触が避けにくい体験

㉑マリジェット(警戒1以下、要望②以下)※軽石の影響を受けることもあります。

..指導員と生徒、生徒同士の接触が避けられず、歓声も止めにくい体験

※菓子、そば、料理は班毎でボールなどの器材を共有して作成する、生徒間の距離を常に1m以上を取ることが難しいプログラムです。生徒間の距離を1m以上取る必要がある場合は、お避け下さい。部屋毎での体験を選択する学校様向きです。

※上記の対策に注意が要する体験は、新型コロナウイルス感染が指定感染症時に策定したものです。今後、指定感染症の分類の見直し、治療薬の使用が行われた時には弊社としても、見直す予定です。

6) 沖縄体験ニライカナイの感染対策の具体的な内容について

- ・新型コロナウイルス対策は、主に5項目の対策(消毒、健康管理、換気、社会的距離、マスク着用)から構成され、以下に内容の詳細を示します。

項目	具体的な内容
消毒 (手指・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗場がある施設においては、常備の消毒用ハンドソープで行う ・手洗場がない場所では、手指消毒用アルコール消毒液(65～82vol%)を設置 ※アルコール濃度 70vol%未満分は消毒効果が確認された界面活性剤入を使用 ・体験中に体験者や指導員が触れる設備や器具について、事前事後に加え体験中も定期的にアルコール除菌スプレーやアルコール除菌タオルで消毒する ・手洗場と体験場所に、サトウキビバガス配合ペーパータオルを準備 ・消毒や手洗いによる手荒れやアレルギーに注意し、アルコール消毒に支障がある体験者の方用に非アルコールタイプの除菌タオル類を準備 ・マリン体験等のウエットスーツやシュノーケル、マスク、マリンブーツ、手袋などは次亜塩素酸ナトリウム液(200ppm)に60分以上浸して完全消毒 ※完全消毒出来ない場合は、通常消毒後3日以上使用していないものを使用 ・次亜塩素酸水や次亜塩素酸ナトリウム液などの空中への噴霧等、健康被害を引き起こす可能性があるものやエビデンスがないものについては使用しない
健康管理 (スタッフ・体験者)	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフは営業開始前に体温を測定し、体温を記録し本部に報告をする ・接触型体温計は使用前後にアルコール消毒液で必ず消毒しておく ・全スタッフは営業開始前に症状の有無を確認し記録する。症状があれば本部に報告をして指示を受けること ・体温が平熱より1度以上高い場合や該当する症状が一つでもあれば、本部に連絡して休業か受診かを判断する ・60歳以上のスタッフは全員がワクチン接種2回完了しましたので指導を再開しますが、体調管理や感染対策を十分にした上での指導といたします ・体験者にも2週間程度の事前の検温と健康チェックをお願いしています。
換気 (密閉対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・開放施設はやまだ体験広場多目的施設やままだ体験館のテラス以外の施設での体験は、2方向以上の窓を常時開けておくことを基本とし、エアコンや扇風機、ヒーター等で温度管理も注意深く併せて行う ・体験中に途中1回は休憩時間を取り、窓を全開にして換気を行うように努める ・公共施設等で換気が出来ない箇所は、出入口のドアを開放するか使用しない ・マリブビーチでの更衣室兼シャワールームには、男女各2か所に扇風機を設置し換気対策を行っています。

項目	具体的な内容
社会的距離 (密集対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員は体験前に消毒、社会的距離、マスク着用(高温時等を除く)依頼を口頭又は掲示やツールで行う(学校側には旅行社を通じ、事前に要請を行う) ・指導員は学校側の感染対策の要望レベルに応じ、生徒と社会的距離(2mまたは1m)を保ちマスクを着用し説明を行う ・指導員は口頭で説明する部分を、出来るものはツールを用いて行う ・当面の間、指導員は体験開始から終了・出発まで体験者に接触をしない ・弊社所有施設のやまだ体験広場やまえた体験館は人数制限(少人数以外貸切対応)を行い、専用管理施設のマリブビーチ、ミッションビーチ、仲泊海岸の更衣室やシャワールームも出来る限り、利用時間中は貸切対応に努める ・青の洞窟シュノーケリングにおいて、公共施設の真栄田岬内更衣兼シャワー室は貸切対応が出来ないので、利用時は要注意(マリブビーチ利用を勧める) <p>※青の洞窟内が密となる可能性が高い日は他のビーチに誘導する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シュノーケリングやバナナボート等で、野外においても生徒間の距離 1m確保 要望校時は、マリンジェットを除き感染レベル 2(流行警戒期)以下で引受する 但し、感染レベル 3でも、野外で生徒間の距離を必要としない場合は引受可能
マスク着用 (密接対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導員を含む全スタッフは、体験者を受入中はマスクを常時着用する ・未収束地域や収束地域に関わらず、体験者にはマスクの着用をお願いする <p>※マスクの着用が出来ない体験者にはフェイスシールドを準備し提供する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高温時の野外体験時等で社会的距離を確保出来る場合は、指導員や体験者に常時マスク着用の強制をしない(熱中症にも十分に注意する) ・指導員は指導(学校)毎に、1日1~2回程度マスクを変えるものとする ・屋内施設で生徒と対面して説明等を行う場合は、アクリル板を設置する ・アクリル板を設置出来ない場所では、指導員はマスクとフェイスシールドを当面の間、着用して説明等を行う(野外で1m以上確保時はマスクのみ着用) ・全ての体験箇所には、マスクやフェイスシールド、ゴム手袋(非ラテックス製)、レインコート類の予備を準備する

5. 沖縄県の警戒レベル指標について(2021年11月30日現在、感染警戒レベル第1段階)

沖縄県内の医療体制や感染状況、参考指標を検討し警戒レベルの指標を策定しています。下記 HP で「沖縄県の警戒レベル及び判断指標の最新状況」が判明します。

<https://www.pref.okinawa.jp/site/chijiko/koho/corona/20200702.html>